

## 6. バイデン政権の核態勢見直し



バイデン政権の核態勢見直し (NPR) は、トランプ政権のNPRの骨格を維持しつつも、B83-1自由落下核爆弾を退役させ、海洋発射核巡航ミサイル計画を取り消すなど、バイデンが大統領選挙中に掲げた安全保障政策における核兵器の役割低下に向けた努力の跡が見られる。一方で、バイデンが導入を目指していた「唯一の目的」政策の採用は見送られた。また、トランプ政権が導入した低威力核弾頭W76-2は維持され、ほとんどの核兵器近代化計画は継続することとなった。

### ❖2022年核態勢見直し(抜粋)❖

2022年10月27日

#### 1. 重要な国家安全保障上の利益を守り、核リスクを低減するための包括的かつバランスの取れたアプローチ

(前略) 2022年核態勢見直し (NPR) は、米国の戦略における核兵器の役割を減らすという目標を推進するための責任ある措置を講じつつ、安全で確実かつ効果的な抑止力を確保するために、以下の決定を行った。(略)

- ▶ 同盟国やパートナー国を保証し、敵の意思決定の計算を複雑にさせながら、核兵器使用の非常に高いハードルを維持する戦略と断固たる政策を採用する。
- ▶ 核と非核の能力を活用し、特定の状況下で抑止力を作り出す統合的な抑止アプローチを採用する。
- ▶ 核兵器の正式な役割から「不確実な将来へのヘッジ」という役割を排除する。
- ▶ 拡大抑止と同盟国への保証の強化のための措置を講じる。
- ▶ 軍備管理、戦略的安定性、不拡散、誤算のリスク低減を通じて安全保障の強化を追求する。
- ▶ 全範囲にわたる核の三本柱の置き換えと核指揮統制通信 (NC3) を含む他の核近代化プログラムを肯定する。
- ▶ B83-1型自由落下爆弾を退役させる。
- ▶ 核弾頭搭載海洋発射巡航ミサイル (SLCM-N) 計画を中止する。
- ▶ リスク管理、生産に基づく回復力、科学技術革新、労働力構想の統合戦略に基づき、近代的で適応力のある核セキュリティ事業を実現する。

## II. 安全保障環境と抑止力の課題

(前略) 中華人民共和国(中国)は、米国の防衛計画作成のペースを定める全体的な挑戦であり、我が国の核抑止力を評価する上でますます重要な要素である。中国は、核戦力の野心的な拡大、近代化、多様化に着手し、初期段階の核の三本柱を確立した。中国はこの10年の終わりまでに、少なくとも1000発の運搬可能な核弾頭を保有する可能性が高い。(略)

ロシアは、その戦略において核兵器を重視し、核戦力の近代化と拡大を続け、修正主義的安全保障政策を支持するために核兵器を振りかざしている。その近代的な核兵器は、さらに増加することが予想され、米国と同盟国とパートナー国にとって永続的な存亡にかかわる脅威となっている。(略)

2030年代までには、米国はその歴史上初めて、戦略的競争相手、潜在的敵対国として二大核保有国に直面することになる。(略)

## III. 米国戦略における核兵器の役割

(略)

**核兵器の役割。** NPRは、以下のような核兵器の役割を確認する：

- ▶ 戦略的な攻撃を抑止する；
- ▶ 同盟国やパートナー国を保証する；
- ▶ 抑止が失敗した場合、米国の目的を達成する。(略)

**戦略的攻撃を抑止する。** (略)

**同盟国とパートナー国を保証する。** (略)

**抑止が失敗した場合、米国の目的を達成する。** (略)

**宣言的な政策。** (前略) 核兵器が存在する限り、核兵器の根本的な役割は、米国、同盟国、パートナー国に対する核攻撃を抑止することである。米国は、米国、その同盟国やパートナー国の死活的利益を守るための極端な状況においてのみ、核兵器の使用を考慮する。

米国は、NPTに加盟し、核不拡散の義務を果たしている非核兵器国に対しては、核兵器を使用したり、使用するよう脅したりはしない。(略)

我々は、核兵器の先行不使用と唯一の目的政策の両方を含む、宣言的政策の幅広い選択肢を徹底的に検討し、米国とその同盟国・パートナー国に戦略レベルの損害を与える可能性のある、競合相手が開発・配備中の一連の非核能力に照らし、それらのアプローチは受け入れがたいレベルのリスクをもたらすと結論した。(略)

**米国の防衛戦略における核兵器。** (略)

## IV. 敵に合わせた核抑止戦略

**国別アプローチ。** (前略) 北朝鮮が米国やその同盟国、パートナー国に対していかなるものであれ核攻撃を行うことは容認できるものではなく、その結果、北朝鮮政権は終焉を迎えることになる。金正恩政権が核兵器を使用して生き残るシナリオは存在しない。核兵器を使用しなくても、北朝鮮は東アジア

アで迅速な戦略的攻撃を行なうことができる。米国の核兵器は、そうした攻撃を抑止する役割を果たし続ける。(略)

**エスカレーションと誤算のリスクを管理する。(略)**

## V. 地域核抑止力の強化

(略)

**欧州大西洋地域における強力で信頼できる核抑止力。(略)**

**インド太平洋地域における強力で信頼できる核抑止力。(前略)** 米国は、戦略爆撃機、核非核両用の戦闘機、および核兵器を地域や世界に前方展開する能力を含め、地域の核紛争の抑止に適した柔軟な核戦力を展開し続ける。我々は、同盟国やパートナー国と協力し、弾道ミサイル搭載潜水艦の寄港や戦略爆撃機の任務など、米国の決意と約束を誇示するために、地域における米国の戦略的資産の可視性を高める機会を特定する。(略)

## VI. 軍備管理、核不拡散、テロ対策

(前略) 我々は、軍備管理、核不拡散、そしてリスク軽減に改めて重点を置いている。これらの政策は米国の核政策と戦力構成の決定を補完し、世界的に核兵器の役割を減らし、中国やロシアとの戦略的安定性を高め、戦争や戦争中の戦闘拡大のリスクを低減する機会の追求を可能にする。特に、軍備管理を通じて敵対国の核および場合によっては非核の戦略的能力を制限し、透明性を高めることは、核兵器の役割を低減するアプローチの中心をなすものである。(略)

**核軍備管理およびリスク軽減。(前略)** 米国は、2026年に失効する新STARTに代わる新たな軍備管理の枠組みについて迅速に交渉する用意がある。ただし、交渉には善意で活動する自発的なパートナーが必要である。(略)

**核不拡散。(略)**

**多国間軍備管理および軍縮。(略)**

**核テロ対策。(略)**

## VII. 米国の核戦力

(略)

### 2022年核態勢見直しプログラムに関する所見

#### 陸上配備戦力

- ・2023~2027年の将来年度防衛計画に記録されたセンチネルICBMの交換プログラムに全額資金を提供する。
- ・センチネルはミニットマンIII (MMIII) を1対1で置き換え、警戒態勢にある400基のICBMを維持する。
- ・センチネルは、W87-0/Mk21とW87-1/Mk21Aの弾頭とエアロシェルを搭載する。(略)

#### 海洋配備戦力

- ・2030年からオハイオ級艦隊を交代させる最低12隻を配備するコロンビア級SSBN計画に十分な資金を提供する。
- ・コロンビア級への移行が完了するまでの間、潜水艦建造産業基盤およびオハイオ級の維持に対する短期的な支出を優先させる。
- ・トライデントIID5戦略兵器システム第二期寿命延長への短期の支出を優先させる。新しい軍事能力を導入しないW88Alt370計画を完了させる。
- ・W93弾頭計画を継続する。英国の交代弾頭計画、共通ミサイル・コンパートメント、Mk7エアロシェルを引き続き支援する。

### 空中配備戦力

- ・B-52Hストラトフォートレス爆撃機群を2050年まで近代化し、全世界に届く核のスタンドオフ・プラットフォームとする。
- ・B-2Aスピリット・フリートに代わるB-21レイダー爆撃機に全額資金を提供する。空軍はB-21を最低100機取得する。
- ・空中発射巡航ミサイルに代わる長距離スタンドオフ兵器と関連するW80-4弾頭に全額資金を提供する。
- ・B83-1型自由落下爆弾を退役させる。(略)

### 補足および核非核両用航空能力

- ・W76-2低威力潜水艦発射弾道ミサイルのオプションを維持し、その抑止力の価値を定期的に再評価する。
- ・核弾頭を搭載した海洋発射巡航ミサイル計画を中止する。
- ・NATOの核任務を支援するため、F-35A戦闘機の核認証を継続し、F-15EをF-35Aへと交代させる。
- ・自由落下核爆弾B-61-3/4/7を寿命を延長したB61-12に置き換える。

核指揮統制通信(NC3)の強化。(略)

核事業のための技術革新。(略)

備蓄の認証。(略)

## VIII. 弾力的で適応性のある核セキュリティ事業(略)

## IX. 結論(略)

出典:米国防総省HP

<https://media.defense.gov/2023/Jan/30/2003151847/-1/-1/1/2022-NUCLEAR-POSTURE-REVIEW-TRANSLATED-FOR-JAPAN.PDF>

アクセス日:2023年2月22日

注:テキストは米国防総省の日本語訳を基に一部ピースデポで修正した。